

グラビア	地域を支える人 川崎紗和さん 倉重仁美さん・山口県岩国市	1
発掘！地域の希望のタネ	愛媛県八幡浜市 〈いやしの楽園「八幡浜・大島」〉	5
給食のじかん	〈黒皮カボチャのみそ汁〉宮崎市	6
長町 文		
解題	児童虐待をどう防ぐのか	8
焦点	強制不妊に光を当てる —毎日新聞キャンペーン報道の成果	栗田慎一 10

特集 児童虐待をどう防ぐのか

インタビュー	子どもたちの命と権利を守る —世田谷版ネウボラと児童相談所の移管に向けた取り組み	保坂展人+佐保昌一 16
	児童相談所の抱える課題 —通告増加に政策として何をすればよいのか?	和田一郎 25
	虐待防止における司法の関わり —弁護士・スクールロイヤーに期待されること	峯本耕治 33
	虐待の未然防止に向けた家庭支援のあり方 —福岡市子ども家庭支援センターの事例から	河浦龍生 38
	スクールソーシャルワーカーによる 困難ケースへの対応	大塚美和子 44
	暴力の連鎖を食い止めるために —DV加害者更生プログラムの現状と課題	吉祥眞佐緒 49
各県自治研活動レポート	自治研活動と「仕事」や「生活」との結びつきを —自治労北海道本部	根本 圭 54
連載	「旧町村部」を歩く⑩島根県邑南町（前編）	坂本 誠 56
書評	大久保真紀著 『ルポ児童相談所』	菅原敏夫 63
連載	『月刊自治研』を読む〈第四季〉⑧続・鷲尾悦也氏のメッセージ	篠田 徹 64
	自治研センターの機関誌案内	71
	次号予告・編集部から	72

児童虐待をどう防ぐのか

深刻な虐待死が相次ぐなか、子どもや家庭と直接関わる現場では、さまざまな試行錯誤が繰り返されています。児童相談所や子ども家庭支援センター、学校や地域を支える専門職種の関係者から、介入と支援にともなう困難など、なかなか聞けない現場の声を、報告いただきます。



インタビュー◎
児童相談所で「子どもの最善の利益」を実現する

子どもも参加、子育て支援のトップランナーとされる東京都世田谷区。その世田谷区が移管をめざす新たな児童相談所とは？ 児童虐待防止法制定に携わり、現在区長三期目の保坂展人さんに、「子どもの権利」に基づく児童相談行政について伺います。（本誌一六頁）

増える面前DV

—児童相談所の現場はいま
結愛ちゃん、心愛ちゃん事件では、児童相談所の判断力と対応力が厳しく評価されました。児童虐待防止の要である児相の課題とは？ 児相の勤務経験をもつ研究者が、急増する面前DV通告をひとつの切り口に、日本の虐待通告対応システムの課題を分析します。（本誌三五頁）

いま注目のスクールロイヤー

—弁護士との関与で何がかわる？
千葉県野田市の虐待死事件では、威圧的な保護者に委縮する学校現場の姿が浮き彫りとなりました。児童相談所や学校への弁護士配置が進められるなか、関西を中心にスクールロイヤーとして実績を重ねてこられた筆者が、虐待防止と司法の関わりを紹介します。（本誌三三頁）

在宅支援の現場から

—学校での不適応から始まる親子の苦悩
通告件数の多くは親子分離に至らず、在宅のまま行政の支援を受けています。その核となる子ども家庭支援センターから見た、支援に必要な親子の実像とは？。かつて児相に勤務し、現在は福岡市子家センの所長を務める筆者の現場からのレポートです。（本誌三八頁）

チーム支援のカギ握る
スクールソーシャルワーカー

虐待が疑わしいケースを学校で発見した場合、問題の背景を見立て、踏み込んだ支援への道筋をつけるのがスクールソーシャルワーカーの役割です。宝塚市などで実際の支援に当たられている研究者が、チーム支援による困難ケースの対応について紹介します。（本誌四四頁）

暴力の支配はなぜ起きるのか

—DV加害者更生を考へる
DV夫とそれに怯える母が、子どもへの暴力を容認し、虐待を過酷なものにしています。今年三月にはDV対応と児童虐待対応の連携強化が国の方針としてようやく確認されました。暴力の連鎖を食い止めるDV加害者更生プログラムの概要も含め、紹介します。（本誌四九頁）

